

四大戦 部便り

2016年7月号

目次

1. 講評

1.1 監督より

1.2 主将・女子主将より

2. 試合経過

3. 試合結果

4. 自己記録更新者一覧

5. 2016年度部内五傑

6. 主務より

6.1 応援OB・OG紹介

6.2 連絡先

1. 講評

1.1 監督より

監督・藤田靖浩

今年度の四大戦は、男子は東京学芸大学を2点差で退けて昨年に引き続き優勝、女子は総合4位でした。

男子総合は最終種目の4×400mリレー次第という接戦でしたが、なんとか勝利を勝ち取り、国公立戦の雪辱を果たせました。中長距離を中心に7種目で優勝したほか、まんべんなく得点を重ねたことが総合優勝に繋がりました。

また、個々の内容は際立った記録こそなかったものの、下級生の活躍や自己ベストを更新した選手も多かったことで、チームの底上げが出来ていることを確認出来ました。

主な記録では、400mで森本が48秒83、同箕島49秒94、ハンマー投で鍵本が41m35。女子走幅跳で白形が5m22。なお、鍵本は最近練習で45mを越える投擲を見せており、七大での東大記録更新に期待がかかります。下級生も三段跳で2年木下が14m62、1年生も棒高跳で三宅が4m80、3000m障害で阿部が9分26秒と対校戦でしっかり戦える記録を残しています。

今年の七大戦は阪大、京大とかなり混戦になると思いますが、ようやくチームにいい勢いが出てきましたので、なんとかこの流れに乗って優勝すべく、引き続き練習に励んで行きたいと思います。

1.2 主将・女子主将より

主将・吉田侑弥

2016年に入ってから、対校戦で初めての勝利をもち取りました。全く勝敗の予想がつかない接戦が続き、最後まで僅差で逃げ切った形になりますが、勝ち勝ちです。

今シーズンのチームに一番足りなかったもの、求められていたものは結果でした。ベストメンバーが全力で臨んだ結果と言えは嘘になりますが、どんな形であ

れ勝利という結果を掴むことができたことで、来る七大戦、京大戦で勝つためにどうしても欲しかった自信を得ることができたと感じております。

また、国公立戦以来1年生、2年生にも好記録がちらほらと見え始めており、今年残す対校戦に留まらず、来年以降のインカレで戦うための準備も整ってきたと感じています。下級生の活躍にも注目していただければと思います。

最後になりますが、遠方にもかかわらず応援に駆け付けてくださった皆様には心より御礼申し上げます。また、日頃より多大なるご支援をいただいておりますOB・OGの皆様方におかれましても、部員一同心より感謝しております。今後の対校戦でも良い結果をお報せすることができますよう今後とも精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

女子主将・白形優依

四大戦は、トラックの部・フィールドの部共に3位、総合で4位に終わりました。今年も昨年同様4位になった原因としては、怪我等で出場が出来なかった選手が多く、対校の部を5人で戦うことになってしまった事にあると考えています。

しかしながら、今回は2種目で優勝があり、また各選手自己ベストやそれに準じる記録を残しており、チーム全体として着実に力をつけていると言えます。七大戦まで残り5週間程になりました。女子パートとしての目標は優勝であり、今年チームのレベルとして目標達成に一番近い位置にいると感じています。各自更に力を入れて練習に励んでまいりますので、引き続きご指導ご声援よろしくお願い申し上げます。

2. 試合経過

◎トラック種目

9:40 男子4×100mR 決勝

1組5レーンに出場。走順は、後藤(3年)-藤田(4年)-松本(4年)-加来(4年)。4人の走力から記録は42.00程度だと予想された。最初の種目であったのでフレッシュな状態でレースに臨めた。

1走の後藤は初めての対校の4×100mリレーだった。走りは悪くなかったが走力の差があり、学芸大との差ができた。後藤にはさらなる走力アップが期待される。2走の藤田も良い走りで順位はほとんど変わらずに3走に渡った。3走の松本は差を詰めた。しかし順位は厳しいままだった。リレーチームのエースとしてはここで逆転をしたかった。4走の加来も順位を変えることはできなかった。

全体としてバトンはずスムーズに渡ったが、受け手の加速に改善の余地があると思われる。

結果は組4着(対校3位)で、タイムは41.87だった。期待されたタイムよりも記録は良かった。

故障者が多かったが、選手層の薄さが目立った。速い選手を揃えるためにも、短距離全体の競技力の底上げが必要であると思われる。

10:00 男子3000mSC 決勝

天候は曇り、気温27.8℃、湿度65%と走りやすく記録の狙えるコンディションだった。我らが代表は2レーン阿部飛雄馬(1年)と5レーン伊藤慎(2年)。東北出身のこの2人はともに対校選手デビューである。午前10時、対校・OP計17人が一斉にスタート。阿部を含む3人が先行し、第2集団が追う展開となった。1000mの通過は、阿部3'03、伊藤3'15。阿部は埼玉大の林田選手にびつたりとつき2番手で推移。一方3位を吸収した第2集団は縦長になっていき伊藤は後方から拾っていく形に。2000mの通過は、阿部6'12、伊藤6'36。先頭の林田選手のスパートに阿部は喰らいつくがラスト1周でその差は20mとなる。一方伊藤は懸命な走りで一人一人前を追って行く。結果は、阿部が

9'26"31で2位、伊藤は9'56"48で5位となった。阿部は高校PBまで9秒、関カレB標準まで1秒余りの好記録を出し、上々の大学デビューとなった。伊藤も手堅いレース展開でPBを出し対校選手の責任を果たした。

10:20 男子 400m 決勝

6レーンに森本(4年)、8レーンに箕島(4年)が出場。森本は48秒台での優勝、箕島は50秒を切って6位以内に入り得点を得たいところ。両者ともにゆっくりしたスタートでレースが始まる。5レーンの選手が早く早くも差をつけられてしまう。森本の目標はこの選手であろう。150mを過ぎたところから森本と5レーンの選手の差の広がりや止まり徐々に縮小し始める。箕島はそのままのスピードを維持。両者とも後半勝負を狙っているか。200m付近で森本のスピードが上がり5レーンの選手との差が一気に縮まり始める。箕島もややスピードが上がり前を行く7レーンの選手に追いつき始める。ラスト100mで森本の順位は2位、箕島の順位は7位。しかし森本には失速が見られず、十分に優勝を狙える。最後の直線、そのままの勢いで5レーンの選手を抜き去り森本は1位でフィニッシュ、箕島も残っていた体力を使い7レーンの選手を抜いて5位でゴール。記録は森本が48'83、箕島が49'94であり着々とレベルを上げている。さらに練習を積んで1ヶ月後の七大戦では森本が目標の47秒台を出して優勝、箕島も48秒台を出して得点を狙ってほしい。

10:35 男子 1500m 決勝

当日は気温がそれほど上がらず、曇天のもと、比較的良いコンディションでのレースとなった。西川(4年)、妹背(2年)の2名が出場。西川は昨年この種目で優勝しており、妹背も先日行われた国公立戦で関カレ標準を突破する好記録を出して、2人での高得点が期待できる。

スタート直後から西川が積極的に飛び出し、先頭で引っ張る。西川、妹背の順に、2番手と4番手で1周目を65"0、65"4で通過。その後妹背が3番手に上が

り、西川とともに3名で先頭集団を形成し、後続を引き離す。2人とも2周目を2'12"0で通過。ラスト1週の鐘の音を合図に西川がスピードを上げ、妹背を含む2人もついていく。3周目を西川が3'15"6、妹背が3'15"9で通過。1300m付近から西川がまたペースを上げるが、妹背もそれについていき、西川と妹背の一騎打ちとなる。最後は西川がわずかな差で逃げ切り、4'00"18の1位で6点獲得。妹背は4'00"22の2位で5点獲得となった。

西川は自己ベストを更新し、さらにこの種目の連覇を果たした。妹背も安定した走りを見せて、東京大学で上位を独占し、合計11点を獲得するという素晴らしい結果となった。

10:55 女子 1500m 決勝

藤原(2年)の出場。コンディションは曇りで、雨は降っていないものの比較的気温の低い中でのレースとなった。5人という少ない人数でのレースであるため、落ち着いたレース展開で高順位を取ることが期待された。

スタート直後、東京学芸大学の選手が一人飛び出て、藤原は4人で固まった2位集団の先頭で走る。トップの選手が早いペースで入っていく中、後続の2位集団も縦長になり始める。3位以下を後ろに付けながら、藤原は1周目を1'20"3で通過。500m付近で3位の選手が遅れ始め、集団もばらつきを見せる。600m付近で3位の選手が完全に遅れ、藤原は単独で2番手を走ることになる。そのまま800mの通過は2'41"1。フィニッシュタイムを考えると3周目の走りが重要となるが、藤原は後続をさらに引き離しながら、落ち着いてペースを保ち、1200mを4'03"2で通過。ラスト300mは、さらなるペースアップをすることはできなかったが、後続の追い上げを全く許さず順位を維持して、5'06"43の2位でゴール。

2位となった藤原は4点獲得。国公立戦の3000mと同様、落ちついたレースを展開した事が、着実な点数獲得に繋がった。今後の対校戦でも活躍が期待される。

11:10 男子 110mH 決勝

6レーンに加来(4年)、7レーンに中尾(1年)の出場。加来は当日調子が良く、レース前に4継にも出場したため体も動いており良い記録が期待された。中尾は今回が初レースで、まだまだ体が戻っていなかったため不安も大きかったが、当日の調子は非常によくPBに近い記録が出せる状態であった。レースは同じ大学の加来と中尾が隣り合うという奇妙な状況でスタートした。加来が得意のスタートで1台目を先頭で入る。中尾は1台目の入りを失敗し、大きく出遅れる。加来は5台目までは先頭であったものの、その後学芸と埼玉の選手に追い越され4位でフィニッシュ。記録は16.17。中尾はなんとか食いつこうとしたが、その力みがかえって失速につながり6位でフィニッシュ。記録は16.53。風は向かい風2.2mであった。二人ともに課題は多く見つかったが、その中でも二人に共通したのは「レース本番での力み」。この課題を解決するためには、ハードルパート内でレース形式の練習をし、さらに試合経験を積むしかない。また、「上半身と下半身の動きが連動していない」という課題も見えてきたため、練習初めのアップにハードルドリルを積極的に取り入れ、この課題を克服することで大幅な記録更新を狙う。

11:30 男子 5000mW 決勝

宇野(4年)、渡邊(4年)の出場。渡邊は関カレ2部10000Wの覇者であり、優勝が本命視されていた。気温27℃の曇天ではあったが、湿度は80%、強い南風が吹きつけるなど、決して好条件とは言えない中でのレースとなった。

スタート当初は渡邊を先頭に、対校選手4名全員を含めた5名の集団が形成された。400mで対校選手4名に集団が絞られ、先頭の渡邊がハイペースで進む中、宇野も果敢に4番手で縋り付く。しかし宇野は1000mを通過するとすぐに集団から脱落してしまい、大きくペースダウンする苦しい歩きとなった。

一方、渡邊は1200mで更に1名を振り落とし、2400mを過ぎると、最後に残った学芸の選手も脱落。

単独歩になっても大幅にペースを落とすことなく、最後まで安定した歩きを見せた。結果は20'46"09で堂々の優勝(4点獲得)。下馬評を裏切らず、エースの責任を果たした。

宇野は何とか立て直して懸命に前を追おうとするも、2400mで2枚目の警告を受けると、修正する暇もないまま2600mで3枚目の警告を受け無念の失格(ロスオブコンタクト及びベントニー)。今大会の審判団は異例の厳しさであり、それに泣いた格好となった。

渡邊は関カレ2部に続く優勝。七大戦でも、この勢いに乗って優勝を期待したい。また、宇野も、今大会で失格になった悔しさを今後の対校戦でぶつけ、好成績を収めることが期待される。

12:10 男子 100m 決勝

4レーンに松本(4年)、3レーンに藤田(4年)の出場。申請記録では松本が10秒90、藤田が11秒27であり、高得点が期待された。

天候は曇り。気温28.3度、湿度71%のコンディションでレースは行われた。号砲がなり、松本がいいスタートを切る。中盤で学芸大の選手2名に交わされるも、3位でフィニッシュ。向かい風0.6mのなか、記録は10秒98。3位であった。優勝は逃したが、安定して10秒台で走る実力を示した。

藤田はスタートで出遅れるが、後半の伸びを見せる。隣に2レーンを走る埼玉大の選手と併走しながら、ラストで競り勝つ。記録は11秒24で、5位。自己ベストであった。

両選手とも更なる飛躍が期待できる走りであった。今後の活躍からも目が離せない。

12:40 女子 100m 決勝

1組3レーンに白形(4年)が出場した。

この日は日差しがないものの気温が高く、好記録を狙えるコンディションであった。曇天の中、号砲が鳴りスタート。スタートの飛び出しは良かったが、中間疾走から徐々に差ができ、3位に。60m付近でさらに二人にかわされて5位になり、最後の粘りも及ばずその

ままフィニッシュし、13.23の五着となった。先に走幅跳に出場していたため、体力的に厳しいところがあったかと思われる。スタートでは上位選手との差はあまりなかったため、中間疾走からのスピードの乗せ方が上位選手との差となり、今後の課題となった。

12:50 男子 400mH 決勝

8レーンには加来(4年)の出場。前回の国公立戦でベストを出すなど非常に調子のいい選手である。本人も53秒台を狙いたいと語っていた。スタートから前半は安定した走りを見せる。しかし、いつもより足が重いのか8台目から9台目にかけて歩数が増え、2着とは差をつけられ55秒03で3着だった。本人も課題を見つけていたようだ。今回の反省をバネにして次こそ53秒台を出してもらいたい。

3レーンには松田(1年)の出場。今回が大学初レースということで本人もブランクを心配していた。やはり弱気になったのだろうか。スタートから出遅れその差は徐々に開いていく。そして5台目を過ぎたあたりで歩数も増え完全に失速し、辛そうな表情でゴールした。結果は1分1秒12で8着。ほろ苦いデビュー戦となった。しかし、期待の大きい一年生ということもあり、くじけずこれからの活躍に期待したい。

13:00 女子 400mH 決勝

1組5レーンに坪浦(3年)が出場。一ヶ月前の関カレにも出場しており、申請記録でも上位である。400mHの経験は豊富であり、優勝への期待が高まる。しかし、本人は最近の練習を振り返って、あまり調子が上がらずうまくいっていないと話す。

曇りではあるが、気温は高めでも悪くない天候。号砲がなりスタート。前半、スピードはあまり出さず冷静な走りである。しかし、6レーンの選手に大きく差をつけられ、4レーンからも迫ってきている。200m付近で4レーンの選手に抜かれてしまう。3着で直線に入り、さあここから追い上げていくかと思われたが、その後もスピードが出ず、最後まで前の選手を追いかけられ、そのままゴールイン。結果は1:03"67で組3着

であった。このタイムは大会新記録であったが、自己ベストには及ばず。

今回のレースを坪浦は、練習と同じく調子が出なく、タイムももっと遅いと思っていた、と振り返る。今後の目標として、全カレの標準記録を切り、出場することだと話した。

13:10 男子 800m 決勝

5レーンに軽部(4年)、6レーンに加藤(4年)の出場。雨がばらつき始めるも競技に支障がない程度で、日差しも殆どなく、6月中旬にしては涼しく走りやすい天候の中であった。軽部、加藤ともに関東インカレの2部A標準を突破する持ち記録を持っており、先に行われていた男子1500mに続くスコルク勝ちが期待される。

スタート後、200m付近まで埼玉大の選手が先頭を走るも、軽部加藤ともに惑わされることなく落ち着いた走りを見せ、200m通過後は軽部が先頭を引っ張り加藤がその後ろにつける形となる。そのまま軽部が57"2の1番手、加藤が57"4の2番手で1周目を通過。2周目も終始落ち着いた走りを見せた2人は、ラスト100mあたりからスパートをかけて他大学の選手を引き離し、軽部1'55"14の1位、加藤が1'55"59の2位でゴール。

見事ワンツーフイニッシュを決めて、この種目でも11点を獲得した。中距離種目は男子1500mでもスコルク勝ちをしており、男子の総合優勝に中距離種目が大きく寄与することとなった。軽部と加藤には、今後も7大戦での活躍や、全カレ標準の突破が期待される。

13:25 女子 800m 決勝

女子800m対校には5レーンに高石(2年)、7レーンに荒木(2年)の出場。高石は日体長、関東インカレ、国公立戦で、荒木も日体長、国公立戦で自己ベストを順調に更新しており、天候も湿度が高いものの気温はそれほど高くなく、両選手には得点のみならず自己ベストの更新も期待された。

号砲が鳴ると、高石が勢いよく飛び出してトップに

躍り出る。100m 地点で既に他の走者たちと差が開いており、その後もほかの走者を大きく引き離す。荒木は高石の約 20m 後ろの 2 番手集団に食らいつく。積極的に仕掛けていき、ホームストレートで 3 番手まで順位を上げる。400m 通過は高石が 1'06"6、荒木が 1'10"4。高石は 2 周目も最初に広げた差は保って、ラスト 100m でスパートをかけて 2 位の走者をさらに引き離し、40m 近く差をつけて 2'15"86 の 1 位でゴール。荒木は 2 周目に入ると前の選手に差を広げられ、後ろから追われる苦しい展開となる。バックストレートで後ろの走者に差を縮められて、600m を過ぎたあたりで 3 人に抜かれる。順位を 6 位に落とし、そのまま 2'26"35 の 6 位でゴール。

両選手ともにベスト更新とはならなかったものの、合計 7 点を獲得した。高石は終始独走であったにも関わらず 2 分 15 秒台を記録、その圧倒的な実力を見せつけた。荒木も積極的に順位を上げようとするアグレッシブなレースを展開した。両選手の今後の更なる活躍が期待される。

13:35 男子 200m 決勝

3 レーンに河野(3 年)、4 レーンに松本(4 年)の出場。両者共に国公立戦で決勝に進出した実力者であり、今大会においても上位入賞が期待される。適度な気温で、風もわずかな好条件の中、号砲が鳴りスタート。序盤、松本が上々の滑り出しをみせ、アウトレーンの選手を次々ととらえていく。河野は松本に少し差を付けられながらも粘りをみせ、以降の走りによっては上位も十分に狙える位置に付く。100m 通過時点で松本は先頭を走り、レースを引っ張る。河野は 5 番手ではあるが、前を走る選手との距離は近く逆転は十分に可能だ。しかし 150m 地点で松本の顔に疲れが見え始め、2 番手の選手と競う展開になり、最終的にはトップを譲る結果となってしまった。松本が 22"01 の 2 着、河野は 22"36 の 5 着でフィニッシュ。風は+0.2 であった。松本は PB の 22"00 に迫るタイムではあったが、優勝を逃しただけに悔しさの残る結果となってしまった。河野においても、国公立戦からタイムは伸ばしたものの、

記録と順位は本人にとって不本意なものであっただろう。今後の両者の活躍にご期待頂きたい。

14:05 男子 5000m 決勝

織原(4 年)、近藤(2 年)の出場。予報から気温が上がりが厳しいコンディションが予想されていたが、雲が出て弱く雨が降り気温もそれほど高くないコンディションであった。

スタートから近藤が集団から抜け出し独走する。また埼玉大学の選手がもう一人近藤から間を開けて独走し、その後ろに 6 人の集団が形成され、織原はその集団を引っ張る展開。その後近藤は 1000 m を 2'52 で通過し二位以降と差を広げながらレースを進め、3000 m 以降は、2 位と 100 m 差を保ちながらほぼ 3'00 で刻み、そのまま一位でフィニッシュ。怪我明けで調子が上がらない中 14'55"54 で 14 分台をマークし対校選手としての役割をは果たした。織原は 3'12-08-20 と集団のペースが上がらないなかで、3800 m 付近での群馬大学の選手のペースアップに反応し 4000 m 通過で前に出て勝負に出た。この時の通過は 12'50 だった。その後群馬大学の選手との一騎打ちになり、ラスト 200 m でスパートをかけられ 4 位でフィニッシュ。タイムは 15'47"67 だった。ラストのスピード勝負で課題が見えるレースだったが、5000m で他大学に勝ち越すことができた。

両選手とも今後の七大戦での活躍が期待される。七大戦まで時間があるので、練習を積んでいきたい。

15:10 女子 3000m 決勝

高石(2 年)、藤原(2 年)の出場。先刻まで降り注いでいた小雨は上がってきたものの、それほど気温は高くなかった。高石は 800m、藤原は 1500m をすでに走り終えており両選手とも本日 2 本目の対校レースであったが、両者ともに持ち記録は高く、大量得点が期待される。

スタート直後、飛び出した東学大の選手に、高石も着いていくものの 400m 通過時点で 10m 程度の差が開き、その後高石は最後まで一人で走る展開となった。

藤原は3人集団の先頭で引っ張り、900m地点で集団の2番手につき直す。1000mの通過が高石は3'31、藤原は3'43と余裕のある入り。中盤、二人とも好調に足を刻み1000-2000間のラップタイムは高石が3'34、藤原が3'39であった。2000m地点で藤原の集団は東学大の選手との2人になり、藤原は前の選手にぴったりとついて走る。レースが動いたのは2400m地点、藤原はスパートをかけ単独3位に付ける。単独で走り続けてきた高石はラストの1000mを3'27のラップで走り自己ベストを10秒上回る10'32"62の2位でフィニッシュ。藤原はロングスパートの疲労からかラストの100mは非常に苦しい走りとなったが、腕を果敢に振りペースダウンすることなく10'54"72で3位。ラスト1000mは3'32であった。

この種目で合計5点を獲得。両選手とも、1日に2本目のレースながら、自己ベスト、もしくはそれに迫る走りであり、七大戦での良い走りを大いに期待できるレースであった。

15:50 男子4×400mR 決勝

6レーンに藤田健一→藤田旭洋→森本淳基→小西慶治の出場。東大は5レーンの東京学芸大を僅差で上回る首位でこのレースを迎える。一部昇格の東京学芸大に関カレでの雪辱を果たせるか？小雨の降る正田醤油スタジアムで、四大戦最後の種目の号砲がなる。

一走藤田健一は序盤から快調に飛ばす。200m付近で7レーンの埼玉大をかわすも東京学芸大に追いつかれ、少しずつ差を広げられる。ラストの直線でスパートをかける群馬大に追走されながら、2走にバトンタッチ。この時点で東京学芸大、群馬大、に次ぐ3位。

続く2走藤田旭洋は、持ち前のスピードを活かし、外側からぐんぐん前との距離を詰める。100m付近で東京学芸大、200m過ぎで群馬大を抜き去る。しかし、疲れが見え始めた300m付近で再び二校に抜き返され、距離を空けられる。3走に繋いだ時点で東京学芸大、群馬大に続いて3位となる。

3走森本は今大会400Mに出場し、優勝。追い上げに期待がかかる。序盤は抑えた走りで前との距離は開き、

後ろの埼玉大にも詰められたが、200m手前からギアが上がる。すぐ後ろに付けた埼玉大を突き放し、30m程に差を広げると、ペースの落ちた前の二校をラストの直線で猛追、一時は50m離されていた2位東京学芸大の背中に10mまで迫り、アンカーにバトンを託した。

アンカー小西の前に行くのは東京学芸大の3年で、400M47秒台の記録を有する小嶋選手。20m程の間隔を保ちながら250m付近までレースは膠着したが、ここから少しずつ距離が詰まる。ラスト100mで一気に追いつき肉薄したもの、終盤に粘りを見せた小嶋選手に後一歩及ばず、半身差でゴール。群馬大、東京学芸大、東大、埼玉大という結果に終わった。

◎フィールド種目

10:00 男子ハンマー投 決勝

男子対校ハンマー投げに4年鍵本、3年加藤が出場した。

試合前のランキングとしては鍵本が1位、加藤が初試合となっていた。鍵本は堅実な試合運びをした。1投目はファールであったものの、2投目、3投目はしっかりと記録をのぼし41m03で3投目まで終わって順位は1位であった。一方加藤は初試合の緊張からか、思うように記録を残せない。3投終わってノーマークであった。出場者数が8人であったため、鍵本、加藤の両方が4投目以降の試技に進んだ。

鍵本は4投目がファール、5投目が41m35、6投目がファールとファールが目立ったが、記録をわずかにのぼし41m35で競技を終了した。加藤は4投目もファールであったが、5投目について記録を残し、その記録は21m86であった。6投目では記録をのぼすことができず、21m86で競技終了となった。

試合結果としては鍵本が41m35で1位、加藤が21m86で6位であった。鍵本は安定して40mを投げることができるようになってきており、また加藤も今回はファールが多く思うようにいかないところもあ

ったものの、始めたばかりでのびしろはまだまだたくさんある。7月の終わりに七大戦があるが、それまでに兩人とも今よりひと回り強くなっていることだろう。

10:30 男子棒高跳 決勝

男子棒高跳には松下(4年)と三宅(1年)が出場。心配された雨は降らず、風も追い風が多いグラウンドコンディションだった。

初めの高さは2人とも4m40。松下は一回でクリア、三宅は2本目でクリアした。次は4m60。

松下は一本目に惜しい跳躍を見せ、二本目は振り上げのタイミングが合わず失敗。三本目は十分な高さがあったもののアップライトが合わず惜しくもこえられなかった。4m40で競技を終える。三宅は4m60を二本目に超え、4m80を三本目にクリア。

4m90を失敗し競技を終えた。三宅が1位、松下が3位だった。

10:30 男子走幅跳 決勝

四大戦男子走り幅跳び対校には西村(4年)、深澤(4年)が出場した。

天候は前日の予想と反し、じめじめとした曇りとなり、早めの試合時間もやや体の動きづらいコンディションであった。

前半の試技3本は西村は7mラインを越える跳躍を3本見せるものの、助走が合わず惜しくも3ファール。深澤は1本目は惜しくもファールしてしまったものの、追い風に乗って2本目に6m94、3本目に6m75の跳躍を見せた。

四大戦では出場選手が8人であるため、西村が8位、深澤が3位で後半の試技に進んだ。西村は4本目に失敗跳躍ながらなんとか6m60と記録を残し、そこで膝の痛みを訴え、残りの試技は棄権、前評判と反し4位で試技を終えた。深澤は4本目以降も安定した跳躍を見せるものの、2本目から記録を伸ばすことができず、学芸2人を捉えることができないまま全体3位で試技を終了した。

走幅跳としては、学芸に1、2位を譲る悔しい結果となった。

関カレあたりからパッとしない結果が続いているので、七大戦での奮起を期待したい。

10:30 女子走幅跳 決勝

白形(4年)の出場。汗ばむような暑さではあったが、追い風が吹いており、好記録を狙えるコンディションであった。

また、女子選手は3人エントリーしていたが、他の2名が棄権したため、自分との戦いとなった。

1本目の跳躍は惜しくもファール。しかし続く2本目、追い風にうまく乗り5m17(+0.9)で自己ベストを叩き出した。

3、4本目は5m08(+0.3)5m14(+2.4)と5m台の跳躍をしっかりとそろえ、5本目では5m22(+0.7)と再び自己ベストを更新した。

6本目の跳躍はファールであった。全体として安定感のある記録を出し、自己ベストを更新したことは来る七大戦へと弾みをつける結果となった。

今後の活躍が期待される。

11:00 男子砲丸投 決勝

砲丸投げには奥村(4年)、鍵本(4年)の出場。3投終了時点で奥村が10m47で4位、鍵本が10m02で5位。奥村は怪我明け、鍵本はハンマー投げ終了直後で、まだ両者とも本領を發揮できていない。残り3投でどれだけ伸ばせるか。残り3投で、奥村はファールと棄権で記録を残せず、10m47で競技終了。鍵本は5投目で、自己ベストとなる10m33と記録を伸ばし競技終了。奥村が4位、鍵本が5位となり5点獲得。優勝争いの相手となる学芸は、2位と3位で9点を獲得し、悔しい結果となった。奥村は、怪我によるウエイト練習不足で実力を出し切ることが出来なかったが、今後期待したい。鍵本は、前回の対校戦に続き、自己ベストを出し、次の対校戦にも期待がかかる。

12:30 男子走高跳 決勝

四大戦対校男子走高跳決勝には福永(4年)が怪我をしていたため補欠の寶田(3年)と赤塚(1年)が出場した。天候は曇りであったが、試合の途中から雨となった。気温は標準的な6月のそれであった。

試技はバーの高さが1m70から始まった。通常の試合に比べ、始まりの高さが高かったためか、2本目には上半身はバーを超えたがクリアランスを失敗してしまったという非常に惜しい跳躍があったものの寶田は残念ながらNMとなってしまった。赤塚は1m70を3回目の試技で成功し1m75を一回で成功した。

この時点で試技者は3人にまで絞られた。1m80の試技が始まり、赤塚は1回目は力が入った跳躍だったため、体が浮かず失敗してしまった。2回目は踏切がバーから近い跳躍となり失敗した。3回目には修正し、助走をやや後ろに下げ、スピードを抑えリラックスをした跳躍を行い、1m80を超えることができた。次に、1m85の試技へ入って行くが、赤塚は疲れた表情を浮かべていた。1回目は助走のリズムがやや崩れ緩慢な跳躍となった。2回目、3回目も同様な跳躍となり試技を終了した。

結果は寶田がNMで順位つかず、赤塚は1m80の自己ベストタイで3位であった。福永の欠場の中では、最低限得点できたものとする。

しっかりと練習を積めば今後の記録向上は兩人とも期待できるので、七大戦に向けて1つの弾みにはなったであろう。

12:30 男子やり投 決勝

3年加藤、2年八木澤の二名が出場。試合前のランキングでは加藤が2位、八木澤が4位であった。去年の国立戦で肘をけがしてから1年あまりたってからの復帰戦となる加藤は今回どこまで記録をベストに近づけられるか、八木澤はベストを更新できるかが見ものであった。八木澤は一投目から全力を出していき2投目でベスト更新の46m90をだして後半の試技に移った。対する加藤は6投確実に投げられることを利用して前半の試技ではフォームを確認しながらの投げで41m後半の記録を出して後半の試技に臨んだ。

この時点で学芸の二人が51m前後で1・2位をとっていた。後半の試技では、八木澤は助走のスピードを出すことで次第にフォームが崩れ始めた結果記録は伸びず46m90の4位でフィニッシュした。加藤は後半からギアを上げていき6投目で前半から記録の伸びていないトップの学芸へ逆転をかけて全力で投げたものの49m84の3位でフィニッシュした。今回は八木澤はベストを更新し、加藤もベストに近い記録で復帰を示したものの、まだまだ七大戦で勝ち上がるには厳しい実力である。この二人のこれからの記録の向上を見守っていきたい。

14:00 男子三段跳 決勝

男子三段跳には吉田(4年)と木下(2年)の出場。天候は試技前には雨がぱらついていたものの試技が始まると雨は止んだ。

気温は適度に暖かく強い追い風が吹いていた。他の選手と比べても吉田、木下は実力的には優勝を狙うことができた。

練習跳躍では追い風が強く足を合わせるのが難しそうに見えた。

試合は開始され木下は強い追い風であったが一本目の跳躍で14.38mとしっかり記録を残す。吉田も一本目で14.56mの記録を残す。

二本目の跳躍は木下、吉田ともに足を外してフェール。三本目の跳躍、木下は足を合わせるもジャンプで潰れてしまい14m06、一方吉田は14m75の跳躍でトップに立つ。

その後、四、五本目の跳躍では記録を伸ばすことができずに迎えた最後の跳躍、まず木下が14m62の跳躍で記録を伸ばすものの、上位3人には及ばず。

そして五本目に記録を抜かれ2位の吉田の跳躍、逆転優勝の期待がかかる中の跳躍であったが記録を伸ばすことはできなかった。

優勝が期待された吉田、木下であったが2位、4位に終わった。7大戦では15mジャンプに期待したい。

14:30 男子円盤投 決勝

四大戦円盤投げには4年奥村、3年土井の二名が出場した。事前予想では奥村5位、土井4位であった。ここまでどうにか持ってきた天気が崩れ始め雨が降ったりやんだりの中で試合は始まった。一投目は二人とも順調に記録を出しここでフォームを修正した奥村が二投目で記録を伸ばし3投目は伸びずに31m24の5位で決勝に進み、土井も二投目は伸びなかったものの三投目で記録を伸ばして31m48で4位と東大内で接戦であった。後半の試技では二人とも初4投目で記録を伸ばしたもののその後は伸びることはなく奥村が33m45の4位、土井が32m88の5位でフィニッシュした。奥村はあまり練習を積めなかった中でうまく調整して記録を出すことができたが、土井は今回はあまり振るわない結果となってしまった。次の七日まであとひと月あまり両名ともにより調製を重ねて今回以上の雄姿を見せてくれることに期待である。

3. 試合結果

結果が未発表のため、大変申し訳ございませんが後日陸上運動部ホームページの試合情報&結果の欄でご確認いただければ幸いです。

4. 自己記録更新者一覧

6/5 第2回日本大学競技会

200m 原島敏知(2年) 23"81

6/4,5 第251回日本体育大学長距離競技会

800m 小山倫之(2年) 2'02"71

1500m 張恭輔(3年) 4'06"92

1500m 長谷川祐輝(2年) 4'14"79

1500m 堀越美菜(2年) 5'39"42

6/19 第41回国立四大学対校陸上競技大会兼第23回国立四大学対校女子陸上競技大会

100m	藤田健一(4年)	11"24(-0.6)
100m	田中紘太(2年)	11"87(-0.2)
100m	福島洋佑(5年)	12"65
200m	泉悠太(5年)	21"84(+1.6)
200m	後藤裕瑛(3年)	23"01(+1.3)
200m	田中紘太(2年)	23"77(+0.9)
400m	森本淳基(4年)	48"83
400m	箕島頌(4年)	49"94
400m	今井樹宏(3年)	55"88
400m	早川航平(3年)	51"14
800m	福島洋佑(5年)	1'57"12
800m	下村麟平(3年)	1'59"54
1500m	西川拓(5年)	4'00"18
1500m	小林龍史(2年)	4'15"18
1500m	大日方孝輝(3年)	4'16"54
1500m	椋本健太郎(2年)	4'26"78
1500m	古賀淳平(1年)	4'27"29
1500m	須藤克誉(3年)	4'30"72
3000m	高石涼香(2年)	10'32"62
3000mSC	張恭輔(3年)	9'45"92
3000mSC	福永亮(3年)	9'50"47
3000mSC	伊藤慎(2年)	9'56"48
3000mSC	肱岡佑(2年)	10'05"31
3000mSC	栗山一輝(1年)	10'13"93
3000mSC	岩渕康太(4年)	10'24"84
走幅跳	白形優依(4年)	5m22(+0.7)
三段跳	木下秀明(2年)	14m62(+1.0)
三段跳	毛利冬悟(2年)	13m26
三段跳	片渕大成(1年)	12m86(+1.8)
ハンマー投	鍵本直人(4年)	41m35
やり投	八木澤光大(2年)	46m90
砲丸投	鍵本直人(4年)	10m33

5. 2016年度部内五傑

男子 100m

1	藤田旭洋(5年)	10"63(-1.2)	5.8
2	泉悠太(5年)	10"74(+2.0)	3.19
3	松本大樹(4年)	10"90	5.29
4	稲葉啓人(5年)	10"98(-0.9)	5.19
5	藤田健一(4年)	11"24(-0.6)	6.19

男子 200m

1	藤田旭洋(5年)	21"39(-1.5)	5.22
2	泉悠太(5年)	21"84(+1.6)	6.19
3	松本大樹(4年)	22"00	5.29
4	稲葉啓人(5年)	22"02(+1.1)	5.21
5	河野太郎(3年)	22"36	6.19

男子 400m

1	森本淳基(4年)	48"83	6.19
2	箕島頌(4年)	49"94	6.19
3	藤田健一(4年)	50"19	5.1
4	加来宗一郎(4年)	50"52	3.19
5	河野太郎(3年)	51"31	5.17

男子 800m

1	軽部智(4年)	1'52"19	5.22
2	加藤騎貴(4年)	1'54"49	4.23
3	妹背雄太(2年)	1'56"17	5.14
4	福島洋佑(4年)	1'57"12	6.19
5	早川航平(3年)	1'57"89	4.23

男子 1500m

1	近藤秀一(2年)	3'53"64	4.2
2	軽部智(4年)	3'55"05	3.20
3	妹背雄太(2年)	3'55"74	5.29
4	福島洋佑(4年)	3'56"43	5.7
5	西川拓(4年)	4'00"18	6.19

男子 5000m

1	近藤秀一(2年)	14'12"37	4.2
2	福島洋佑(5年)	14'30"73	4.24
3	妹背雄太(3年)	15'13"34	5.15
4	織原健人(4年)	15'14"50	4.2
5	坂出竜弥(4年)	15'21"43	4.24

男子 10000m

1	近藤秀一(2年)	29'22"82	4.23
2	織原健人(4年)	31'44"89	4.23
3	大日方孝輝(3年)	32'59"31	4.23
4	須藤克誉(3年)	33'31"85	4.23
5	油井星羅(2年)	35'24"24	4.23

男子 5000mW

1	渡邊成陽(4年)	20'43"63	5.29
2	宇野文貴(4年)	22'09"42	5.29
3	堀江駿(2年)	23'31"78	5.29
4	櫻井悠也(4年)	23'32"37	5.29
5	棟重賢治(3年)	23'56"53	6.19

男子 10000mW

1	渡邊成陽(4年)	42'00"47	5.21
2	宇野文貴(4年)	45'09"14	3.19
3	棟重賢治(3年)	46'24"64	4.30
4	櫻井悠也(4年)	47'29"20	4.30
5	堀江駿(2年)	49'17"09	4.30

男子 110mH

1	加来宗一郎(4年)	15"79(-0.7)	5.19
2	寶田雅治(3年)	15"99(+0.7)	4.2
3	中尾幸志郎(1年)	16"53(-2.2)	6.19
4	杉森康平(6年)	16"92	5.29

男子 400mH

1	加来宗一郎(4年)	54"55	5.29
2	越村真至(5年)	56"27	4.2
3	松田光陽(1年)	61"12	6.19
4	今井樹宏(3年)	63"96	5.29

男子 3000mSC

1	福島洋佑(5年)	9'20"71	4.2
2	荒田彰吾(4年)	9'43"35	4.2
3	張恭輔(3年)	9'45"92	6.19
4	福永亮(3年)	9'50"47	6.19
5	妹背雄太(3年)	9'51"26	3.27

男子 4×100mR

1	泉(5)-西村(4)-松本(4)-藤田(5)	40"66	5.21
2	小嶋(2)-稲葉(5)-松本(4)-藤田(5)	41"46	4.2
3	後藤(3)-藤田(4)-松本(4)-加来(4)	41"87	6.19

男子 4×400mR

1	越村(5)-森本(4)-藤田(4)-箕島(4)	3'18"54	5.21
2	加来(4)-森本(4)-河野(3)-越村(5)	3'20"98	4.2

男子 走幅跳

1	西村智宏(4年)	7m40(+0.2)	5.1
2	深澤竜太(4年)	6m99(+1.2)	4.16
3	木下秀明(2年)	6m89(-1.0)	5.29
4	草野恒平(3年)	6m65(+0.6)	3.19
5	萩尾公貴(3年)	6m37(+0.6)	5.1

男子 三段跳

1	吉田侑弥(4年)	14m75	6.19
2	木下秀明(2年)	14m62(+1.0)	5.29
3	毛利冬悟(2年)	13m26	6.19
4	杉本恭一(2年)	13m06(+1.8)	3.20

男子 走高跳

1	福永大輔(4年)	2m03	4.6
2	木下秀明(2年)	1m85	4.6
3	赤塚智弥(1年)	1m80	6.19
4	寶田雅治(3年)	1m65	5.29

男子 棒高跳

1	三宅功朔(1年)	4m80	6.19
---	----------	------	------

2	松下周平(4年)	4m50	5.22
3	戸部潤一郎(2年)	3m40	5.29
4	寶田雅治(3年)	3m00	3.28

男子 砲丸投

1	奥村俊樹(4年)	10m83	5.19
2	鍵本直人(4年)	10m33	6.19
3	加藤輝仁(3年)	10m23	5.29
4	土井雅人(3年)	9m84	5.29

男子 円盤投

1	土井雅人(3年)	33m75	5.21
2	奥村俊樹(4年)	33m45	6.19
3	鍵本直人(4年)	32m96	5.29
4	八木澤光大(2年)	24m42	5.29

男子 やり投

1	加藤輝仁(3年)	49m84	6.19
2	八木澤光大(2年)	46m90	6.19
3	加来宗一郎(4年)	37m96	5.29
4	松下周平(4年)	35m85	5.29
5	寶田雅治(3年)	30m23	5.29

男子 ハンマー投

1	鍵本直人(4年)	41m35	6.19
2	加藤輝仁(3年)	21m86	6.19

女子 100m

1	内山咲良(1年)	13"05(+0.6)	6.6
2	白形優衣(4年)	13"22	5.29
3	笠村洋子(4年)	13"77	5.29
4	石丸夏奈(2年)	14"93(0.0)	3.27

女子 400m

1	河原未来(4年)	66"32	3.19
---	----------	-------	------

女子 800m

1	高石涼香(2年)	2'13"91	5.29
---	----------	---------	------

2 荒木玲(2年) 2'25"83 5.29

3 河原未来(4年) 2'31"07 6.19

女子 1500m

1 高石涼香(2年) 4'44"68 3.28

2 藤原ゆか(2年) 4'59"21 4.23

3 堀越美菜(2年) 5'39"42 6.4

女子 3000m

1 高石涼香(2年) 10'32"62 6.19

2 藤原ゆか(2年) 10'47"13 5.29

女子 100mH

1 笠村洋子(4年) 17"08 5.29

女子 400mH

1 坪浦諒子(3年) 61"95 5.21

女子 4×100mR

1 高橋(3)-白形(4)-笠村(4)-坪浦(3) 50"94 5.5

女子 走幅跳

1 内山咲良(1年) 5m50(+0.1) 4.16

2 白形優依(4年) 5m22(+0.7) 6.19

6. 主務より

6.1 応援 OB・OG 紹介

6/19 に正田醤油スタジアム群馬で行われました四大戦に際し、応援に駆けつけてくださったOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

H3年卒 馬場勝也

H13年卒 岡野浩行

H15年卒 橋本武

H23年卒 近藤堯之

H23年卒 斉藤瞬也

H23年卒 園部竜也

H23年卒 渡邊拓也

H24年卒 山田竜也

H27年卒 荒井太弥能

H27年卒 原知明

H28年卒 小西慶治

H28年卒 宮原弘季

H28年卒 八木慶子

ご多忙の中応援にお越しくございましたこと、現役部員一同心より御礼申し上げます。

6.2 連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二

TEL : 03-5370-9370

Mail : Seiji_Saito@suntory.co.jp

学生主務：宇野文貴

〒113-0024 東京都文京区西片1-10-10カーサ西片103号室

TEL : 090-4687-6807

Mail : shumu@utf.org

学生主務補：河原未来

Mail : utf.shumuh@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.utf.org>

学生主務 宇野文貴

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の坂出までお送り下さい。

部便り主任 坂出竜弥

(Mail: rsakade.utf@gmail.com)